



京都東山 高台寺塔頭  
圓徳院閑栖住職

# 後藤典生 講演会

閑栖(かんせい) 臨濟宗において住職を退いた人の尊号



# 夢と出合い

## ねねの寺・高台寺物語

京都東山の名物和尚が語る ねねと高台寺の物語り！

高台寺の来し方行く末を事例に考える

「人間の品格」とは――

「より良く生きる」とは――

今をどう生きるべきか

あらためて今こそ考えてみる

### 【二十五絃箏独奏】

講演の導入として、京都にちなんだ  
楽曲の演奏をお楽しみいただきます。

(約15分)

飛山桂「京・源氏抄」より  
“うじ” “きよみず”



演奏：飛山百合子

平成22年

**10月16日[土]** 14:00開演 (13:30開場 / 15:45終演予定)

茨木市福祉文化会館 オークシアター5階文化ホール

茨木市駅前四丁目7番55号 ☎072-623-3962 / JR茨木駅から東へ、阪急茨木市駅から西へ徒歩10分、茨木市役所北向

【全席自由】 1,000円 〈発売中〉

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き  
(各会員割引の取り扱いは文化振興財団のみです)

※就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

#### ◆チケットのお申込み・お問い合わせ

(財)茨木市文化振興財団・事業係072-625-3055 (9:00～17:00)  
ユアイホールチケットカウンター 9:00～20:00 (土・日・祝は17:00まで)  
クリエイトセンターチケットカウンター 9:00～17:00

#### ◆その他の販売所

ローソンチケット0570-000-777・Lコード予約0570-084-005 (Lコード57591)

◆主催：(財)茨木市文化振興財団 ◆後援：茨木商工会議所/茨木市観光協会



# 後藤典生講演会「夢と出会い～ねねの寺・高台寺物語」

◆平成22年10月16日(土) 14:00開演(13:30開場) ◆茨木市福祉文化会館(オークシアター)5階・文化ホール

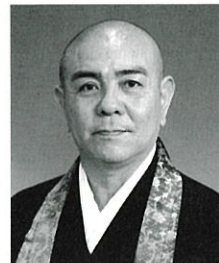
◆主催:(財)茨木市文化振興財団 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会

14:00～14:15 飛山百合子・二十五絃箏独奏 飛山桂作曲「京・源氏抄」より「うじ」「きよみず」

14:15～15:45 後藤典生講演「夢と出会い～ねねの寺・高台寺物語」

## 後藤典生(ごとう・てんしょう)

昭和23(1948)年京都生まれ。立命館大学法学部卒業。現在、高台寺塔頭圓徳院閑栖住職。長年、臨済宗連合各派巡教師として仏教の普及につとめる。保育園園長として幼児教育にたずさわり、また政所窯主として作陶活動中。京都市観光大使として京都の観光事業にも積極的な活動をおこない、平成21(2009)年には、観光庁から「YO-KOSO! JAPAN大使」に任命される。主な著作に「気負っているあなたへ」(かもがわ出版)、「こころ惑うときに」(ふたば書房)、「わが家の仏教 臨済宗」(共著・四季社)、「日本の古寺 高台寺物語」等。



## 鷲峰山(じゅぶざん) 高台寺(臨済宗建仁寺派)

東山霊山(りょうぜん)の山麓、八坂法観寺の東北にある。正しくは高台寿聖禪寺といい、豊臣秀吉没後、その菩提を弔うために秀吉夫人の北政所(ねね、出家して高台院湖月尼と号す)が慶長11(1606)年開創した寺である。寛永元(1624)年7月、建仁寺の三江和尚を開山としてむかえ、高台寺と号した。造営に際して、徳川家康は当時の政治的配慮から多大の財政的援助を行なったので寺観は壮麗をきわめたという。現在旧持仏堂の開山堂、霊屋、傘亭、時雨亭、表門、観月台等が国の重要文化財に指定されている。秀吉と北政所を「霊屋(おたまや)」に祀り、北政所像の下はその墓所となっている。須弥壇(しゅみだん)と厨子は華麗な蒔絵装飾が施され、桃山美術を代表する「高台寺蒔絵」として知られる。開山堂を中心に東西に広がる池庭は小堀遠州作と伝えられる。尚、豊臣秀吉夫人(北政所)は天正16(1588)年に従一位に序せられ慶長8(1603)年に後陽成天皇より高台院の号を賜り寛永元(1624)年9月6日、76歳で亡くなられた。



## 圓徳院(えんとくいん) 北の政所ねね終焉の地

豊臣秀吉の没後、その妻北政所ねねは「高台院」の号を勅賜されたのを機縁に高台寺建立を発願し、慶長10(1605)年、秀吉との思い出深い伏見城の化粧御殿とその前庭を山内に移築して移り住んだ。それ以来、大名、禅僧、茶人、歌人、画家、陶芸家等多くの文化人が、北政所を慕って訪れたと伝えられている。ねね58歳の時であった。これが今日の圓徳院の起こりである。ねねは76歳で没するまで19年間この地で余生を送り、北政所の終焉の地となった。そのねねを支えていたのが、兄の木下家定とその次男の利房である。圓徳院は利房の手により、高台寺の三江和尚を開基に、木下家の菩提寺として開かれ、高台寺の塔頭とされた。寛永9年、ねねの没後8年目のことである。



## 飛山百合子(とびやま・ゆりこ) 箏曲家

京都生まれ。生田流箏曲を故・峯内吟彰に、二十五絃箏を野坂操壽に師事。京都大学文学部卒。NHK邦楽技能者育成会27期卒。昭和57(1982)年、昭和58(1983)年、NHK邦楽オーディション合格。飛山彰茶(しょうさ)として京都當道会、正吟会、京都三曲協会にて古典の研鑽をつむ一方、飛山桂とのジョイントコンサートである「四季のコンサート」を中心に、小中学校への出前公演、クラシックバレエ、日本舞踊とのコラボレーション、詩吟・オーケストラとの共演など様々な分野で幅広く活動。平成17(2005)年より柳川三味線を中澤真佐に師事。百合和会主宰。京都當道会、正吟会、京都三曲協会所属。茨木市在住。



## 飛山桂作曲「京・源氏抄」より

「うじ」 宇治川の激しい流れを、速い上昇旋律の反復で表現し、これに源氏物語・宇治十帖のヒロイン浮舟の「愛の葛藤」を絡ませている。フーガの手法を用いたのは、「隠れ家」での浮舟と匂宮の「夢のような蜜月の時」と、平等院鳳凰堂の幾何学的な建築美、そして私の大好きな雲中供養菩薩52体を音で表現したかったからである。「浮舟のテーマ」は何回も形を変えて出て来るが、フレーズの終わりを「半音上げ(押し手)」で締めている。浮舟という女性の、しなやかで、強靱な心を表現したかったからである。

「きよみず」 光源氏の愛した女性、夕顔、葵の上、紫の上は、夕顔は8月15日に、葵の上は8月20日過ぎに、紫の上は8月14日(いずれも旧暦)にと、奇しくも命日が同じ中秋であり、同じく東山・鳥辺野(鳥辺野)に葬られている。今の街並みが出来るまで、この地は、身分の上下貴賤を問わずおびただしい数の人たちが眠る場所であった。当時(1000年前)、清水の舞台からの眺めは、眼前にあるいは殺伐とした荒涼屍の原野が広がっていたかもしれない。曲は、般若心経の響きを感じつつ、現代のRequiemを願って書いたものである。清水の舞台に立ち手を合す。「死」と向き合う場所である故に、今ある生命がいとおしく、西山に沈む夕陽が一層輝くのである。ここは、京都の風景の一つの原点であり、源氏物語の底流を感じる場所でもある。(飛山 桂)

## ◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館ユアアイホール1階 9:00~17:00)

\*電話予約もお受けします。

\*予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイティブセンターチケットカウンターでご精算ください。

\*予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送手数料400円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。

〈振替口座〉00970-7-190576/加入者名:財団法人茨木市文化振興財団

◆茨木市福祉文化会館(オークシアター) 茨木市駅前四丁目7番55号/072-623-3962

